

下大和田谷津田だより



2006年 3月号

第73回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告

2月5日 晴れ

穏やかに晴れた暖かい観察日和となりました。朝のうちは田んぼも凍っていましたので冬芽や葉痕、鳥を見たりしながら谷津を一巡し、午後、氷が解けてからニホンアカガエルの卵塊の観察とカウントをすることとしました。今日もハンターが入っていて猟犬3匹が谷津の中を走りまわり小鳥達が逃げ惑う姿が見られました。そのせいか、猟犬が走り回ったところでは鳥が敏感になってすぐ逃げてしまうなどじっくり見ることは出来ませんでした。それでも、後半はメジロ、エナガの数十羽の群れに出会い、こんなにたくさんのメジロやエナガを見たには初めてだ！と参加者から歓声があがりました。午後は私たちの田んぼのニホンアカガエルの卵塊を見て回りました。卵塊は14個ありました。花はただ一種、オオイヌノフグリだけが田んぼの土手に咲いていました。

野鳥：キジバト、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、ハシブトガラス。

観察時間外でベニマシコ

開花植物：オオイヌノフグリ。

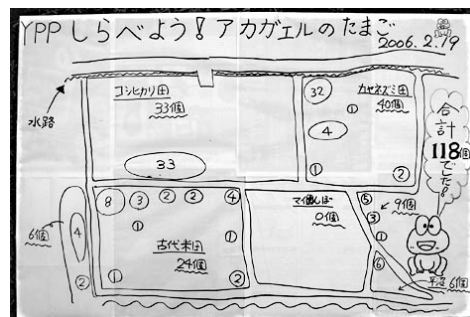
(参加者：大人14人、子供2人；報告：網代春男)

第57回谷津田プレート・プロジェクト(YPP)

「森の手入れ」

2月19日 くもり

寒いこの時期はいつも参加者が少ないのですが、子どもの姿がないYPPは初めてで残念でした。まずはアカガエルの卵塊かぞえ。どの田んぼも卵の数が増えていて、合計118個。一昨年も100個を超えたのですが、まだ増えると思うので記録的な多さになりそうです。隣の大塚さんの田んぼにもたくさんの卵塊があり、早々と孵化した卵の周りではオタマジャクシらしい形になった子どもたちが元気に泳いでいました。林では木の名札を作りました。間伐したスギとイヌシデを斜めに輪切りにしたプレートに木の名前を彫刻刀で彫りました。「彫刻刀なんて中学校以来!」、最初は「大変そうだな...なるべく文字が少ないのにしよう」とちょっと気がひけていたのですが、始めるとすっかりはまってしまい、久しぶりの木を彫る感覚を楽しんで、1枚終わるとすぐに次のプレートを手にしていました。彫り方を変えたり、彫ったあと、焼いてみたり、色を付けてみたり、いろいろな工夫して、素敵なネームプレートがたくさんできました。木に取り付けるヒモはシュロの樹皮を剥いで繊維をなべて作りました。プレートも林に生えていたスギとイヌシデなのですべて地産地消です!あちこちに木にプレートが掛けられて、生きている林図鑑になりました。改めてみるといろいろな木があるものと驚きです。子どもたちに木への関心をもらうよい仕掛けとなりそうです。まだ長い名前の木がプレートを付けてもらうのを待っていますので、参加できなかった皆さんもいかがですか?



(参加者：大人10人、報告：高山邦明)

下大和田季節のたより

2月4日 アカガエルの卵塊10個確認。2/2には無かったことから2日が3日の夜が今年の最初の産卵だった模様。モズが様々な鳥のさえずりをまねていた。オオルリの鳴きまねも。(高山)

2月7日 夜、アカガエルの抱接シーンを観察。(田中・網代)

2月11日 アカガエルの卵塊は28個に。カケスが本物そっくりのサシバの鳴きまねをする。(高山)

2月22日 夜、フクロウのさえずりと姿を確認。田んぼにはアカガエルの姿も。(田中)

2月25日 あちこちでウグイスのさえずり。みんなの田んぼのアカガエルも孵化。カケスは再びサシバの鳴きまね。ホオジロがペアになっていた。(高山)



昨年はアカガエルの産卵が少なく心配だったのですが、今年はたくさん産んでくれました。田んぼ以外ではほとんど産卵しないアカガエル。みんなで米づくりをすることで今や貴重種となったアカガエルのたくさんの命を支えることができます。春を迎え、これからたくさんの生きものが田んぼから生まれます。谷津田での春さがしにみなさんもお出かけ下さい。
高山邦明